



業務実施方針

子どもの学びを核にみんなではぐくむコミュニティ・サークル

特に重視する配慮事項

島津義弘公のお膝元である加治木はさまざまな史跡や、加治木石の石垣など歴史的な風景の残る、古来からの要所でした。その、加治木も平成7年頃を境に65歳以上の人口が15歳未満の人口を上回り、少子高齢化が大きな課題となっています。

そこで加治木を持続可能なまちとするために、子どもにやさしいまちの文化をはぐくんでいく、コミュニティ・サークルとしての庁舎を提案します。

- そのために、3つのサークルのコンセプトを軸として、
- ・子育て世代にやさしい庁舎
- ・子どもが地域の中で健全に学び育つ庁舎
- ・さまざまな世代の市民が参加し、みんなではぐくむ庁舎を目指します。

取り組み体制、設計チームの特徴

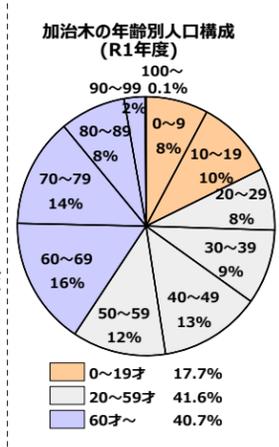
鹿児島で40年以上の実績を持つ設計事務所と、県外も含めた多様な経験を持つ設計事務所とが共同でプロジェクトを進めます。また、公共施設設計の経験豊かな各担当技術者や、まちづくりや市民との対話経験の豊富なまちづくりコーディネーターを協力者として配置することで、市民・関係者と一体となってプロジェクトを進行します。

設計工程を含む事業全体のロードマップ

庁舎が有効に活用されるためには、ハード面（建物）と同様に主体的な市民活動を育むようなソフト面も含めたロードマップを組み立てることが必要だと考えます。そのために、関係者と協議しながら多様な方策を検討したいと思います。

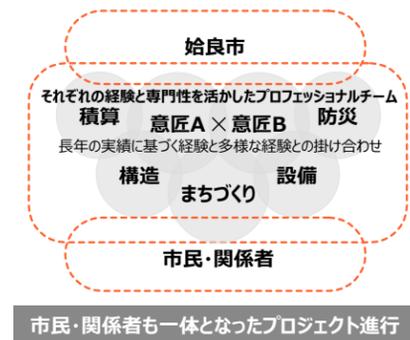
ソフト面も含めた方策の検討

- ・設計者、市民、行政で計画から完成までのプロセスを共有 ・先行事例の研究会や講演会
- ・結論ありきの誘導型ではなく、さまざまな意見を「設計の密度を上げる契機」と捉え、総合的に調整を加えていく調整統合型設計プロセスの採用
- ・運営までを見据えた設計者、市民、行政によるプロジェクト会議（デザイン会議や企画・運営会議）の実施
- ・ワークショップ（以後WS）や会議、まち歩きなどを通じた地域資源、人材の発掘や関係性づくり
- ・建物の模型やCGなどを使った「使い方会議」 ・小中学校と連携した「私のほしいたものコンテスト」
- ・実際に施工体験を楽しみ、「我が事感」や愛着を感じてもらう塗装WSやメンテナンスWS



- 1. 人の集まりとしてのサークル**
同じ加治木に住んでいる、同じ年代、同じ趣味...何かの接点を持つ人達が集まることで、そこに生き甲斐や価値が生まれます。
- 2. 開かれた形態としてのサークル**
複数の人の集まりが一つの場所に集まり可視化されることで、そこに新たな接点と価値が生まれます。円形は活動を表出する機能を担うとともに、市民に開かれた施設であることの象徴となります。
- 3. プロセスの円環としてのサークル**
人が集まり、つながる、そのプロセスが円環を描くように廻り続けることで、加治木というまち自体が、より住み良く、より魅力的なものになっていきます。

3つのサークル・コンセプト



基本課題① 防：地域防災拠点としての施設

いかなる時も市民の暮らしを支える「信頼の砦」

様々な災害に対応できる、地域防災拠点機能を備える庁舎

日々、市民に寄り添った行政サービスを提供するとともに、災害等の非常時にも行政機能を維持し、市民の暮らしを支え続ける「信頼の砦」としての庁舎を目指します。また、近年のゲリラ豪雨や予測困難な災害、万が一の洪水時にも行政機能を損なわないように配慮します。

地域防災の手法

- ・本庁やその他機関との連携を図る情報通信設備を備えた防災室の設置 ・災害に迅速に対応できるように消防詰所を別棟で主要道路側に独立配置
- ・備蓄倉庫やサーバー室を2階に配置 ・サーバー室等は無停電・床免震構造とする ・2階全体を災害時の支援スペースとして利用可能に
- ・多目的ホールは1階に配置し駐車場やにぎわい広場と合わせて災害支援活動の拠点とする ・災害時に吹き出しができるコミュニティキッチンやかまどベンチ
- ・背面の目立たない位置にマンホールトイレを設置 ・家具や什器等には転倒や物の落下を防ぐ耐震金物等を採用
- ・設備として2回線受電設備、非常用発電設備、太陽光発電パネル、非常用排水槽、雨水貯留槽の採用を検討

十分な耐震性能を有し、安全性の高い庁舎

0.9mモジュールとの相性が良く、効率的な7.2mグリッドのRCラーメン構造を基本とします。免震構造は規模や階数から面積あたりのコスト負担が大きいことから、基本的には耐震構造としながら、大地震動後も行政機能を維持するための十分な強度を確保します。必要な部分には局所的な床免震構造等の採用を検討し、設備系統の被害を抑制します。また、液状化危険度の高い地域であることから、地盤について慎重に検討し、最適な工法を選択します。

基本課題② 環：環境に優しい施設 経：経済的な施設

パッシブ手法とアクティブ手法を活用した環境調整型庁舎

- 自然エネルギーを活用し、環境負荷の低減に配慮
- ライフサイクルコストの縮減、経済性に配慮

断熱性能を高めるとともに、自然エネルギーを積極的に活用するパッシブ手法と、設備等の新しい技術を取り入れるアクティブ手法を併用し、環境負荷を低減しながらライフサイクルコストの縮減に配慮した、環境調整型の庁舎を目指します。

パッシブ手法の検討

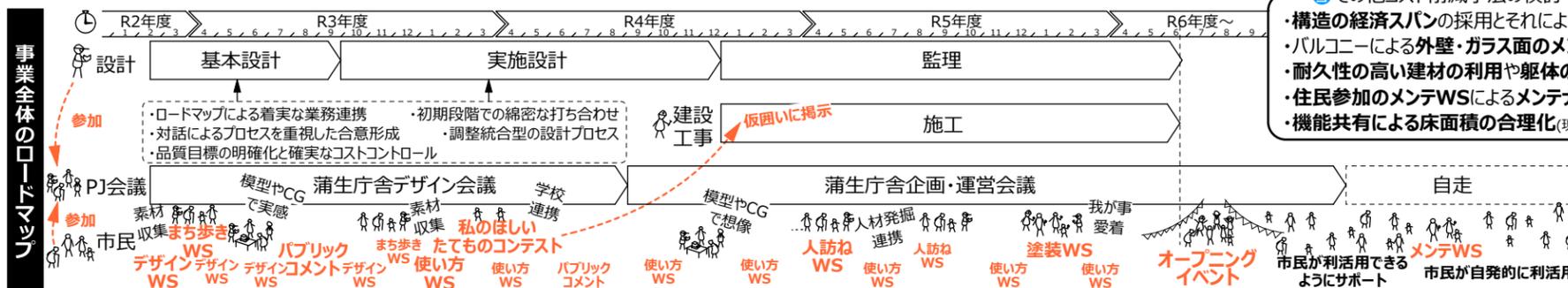
- ・RCの蓄熱性をメルト化しヒートアイランド抑制にも繋がる外断熱工法と内断熱工法との適所採用及び高断熱ガラスの標準採用による熱負荷の低減
- ・吹抜けや階段室を環境ポイドとした自然換気と自然採光の活用 ・夜間の冷気取り込みによるナイトバージ ・雨水貯留槽による雨水利用
- ・庇やバルコニーによる日射調整 ・西面の開口部の絞り込みと外付けブラインドの採用、外壁通気構法等による熱負荷の低減

アクティブ手法の検討

- ・太陽光発電パネル及び蓄電池の設置 ・全館LED照明、人感センサー・昼光センサーの採用 ・使用エネルギーの見える化及びスマート化
- ・高効率ヒートポンプ、CO2センサー、全熱交換換気システムの採用 ・節水型衛生器具の採用

その他コスト削減手法の検討

- ・構造の経済スパンの採用とそれによる階高・天井高さの合理化
- ・バルコニーによる外壁・ガラス面のメンテナンスコスト削減
- ・耐久性の高い建材の利用や躯体の温度変化抑制による長寿命化
- ・住民参加のメンテWSによるメンテナンス意識と技術の向上
- ・機能共有による床面積の合理化(現案2,562㎡。今後の協議により縮小も検討)



特定課題 学：子どもたちの学びの場としての機能

特定課題 交：学び舎集いの場として若い世代や高齢者などが世代を超えて交流できる地域拠点機能

特定課題 多：多目的スペースなどの交流機能

特定課題 子：子育て世代のニーズを反映できる、子育て支援機能

地域全体で子どもの学びを支える庁舎

計画地はいくつも点在している各種学校や塾・教室等のほぼ中心に位置しており、そのほとんどが1km圏内にあります。実際、計画地の前を通る学生の姿も多く見られ、学びに関するニーズは大きいと思われます。

子どもたちが普段の生活や学びを通して成長していくためには、多様な人々との関わり合いが不可欠ですが、そのような機会は失われつつあります。

そこで、本施設の計画では、学びを「人の関わり合いの中からの学び」をも含めたものとして捉え、地域全体で子どもの学びを支える庁舎となることを目指します。



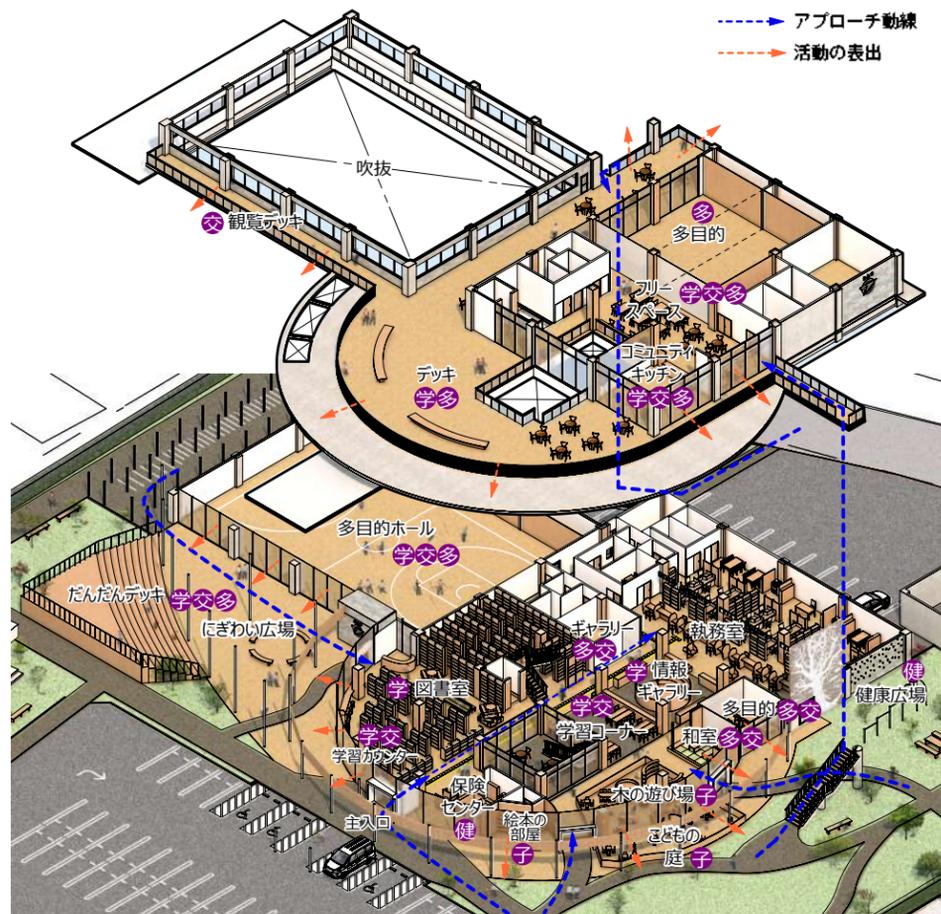
計画地周辺の学校等

子どもたちが通いたくなる庁舎

まず第一に、本施設が、子どもが学ぶための空間として居心地が良く、自ら通いたくなるような庁舎であることが大切です。

そのために、様々な学びの場を用意します。

- 子どもたちが通いたくなる庁舎とするための手法
 - 1階の図書館、図書館の学習カウンター、吹抜けのある学習コーナーなどの学びのスペースの他に、2階フリースペース、2階屋外デッキ、にぎわい広場とだんだんデッキ、散策路のベンチなど、その日の気分などに応じて使い分けられる多様で居心地の良い場をつくる
 - 周辺の様々な場所から徒歩や自転車などで通う際に自然と施設内に入れるように多様なアプローチ動線を用意する
 - 情報ギャラリーなどで地域の歴史や情報などにも触れられるようにする
 - スポーツや趣味、ダンスの練習など、勉強以外の目的でも活用されるように多様な場所をつくる
 - 多様な人々との出会いの場を用意する



アプローチ動線 活動の表出

偶然の多様な出会いが学びを生む、学び舎としての庁舎

子どもたちの成長のために不可欠な、多様な人々に関わる機会を生むためには、本施設が多様な人々に活用されることが必要です。そのために、利用しやすい雰囲気をつくるとともに、さまざまな接点が生まれるように計画し、偶然の出会いが学びを生むような、学び舎としての庁舎を目指します。

- 多様な出会いを生むための手法
 - 多目的ホールや多目的室、和室やギャラリー、木の遊び場やフリースペース、多様な屋外スペースなど、さまざまに活動ができる場所を用意する
 - 多様なアプローチ動線を用意する
 - 行政機能をあえて奥に用意することで他の活動に触れる機会をつくる
 - 人々がくつろいだり活動している姿の表出によって、それを見た人々のセレンディピティ・活動意欲が刺激され、新しい活動が生み出されるような空間構成
 - 和室と学習コーナー、木の遊び場等、多様な世代の利用スペースの近接配置
 - 市民グラウンドとわんぱく広場の接点に東屋を設ける等、接点となるスペースを検討
 - コミュニティキッチンを利用した子ども食堂等の開催による、経済的に不利な子ども、孤食世帯の見守りや多世代交流機会の提供、ボランティアによる学習支援等
 - 空間構成の多機能複合から多機能融合への転換と「居場所」としての空間デザインの徹底

セレンディピティ：偶然に新たな発見をしたり、予期せず価値あるものを見つけることで幸運を手に入れる能力。今後、行政がサービスを提供するだけでなく、市民のこのような能力が発揮されるようになることが、ますます重要になってくると考えられます。

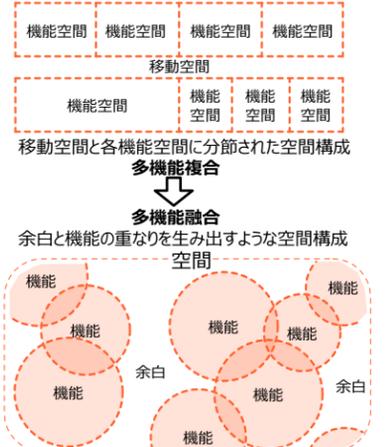
ここへ来れば何かがある。多機能複合から多機能融合へ

これからの複合庁舎を考える上で、本施設が多様な人々に利用されるためには、機能の足し算としての多機能複合施設であることを超え、機能と空間が重なり響き合う多機能融合施設となることが重要だと考えます。

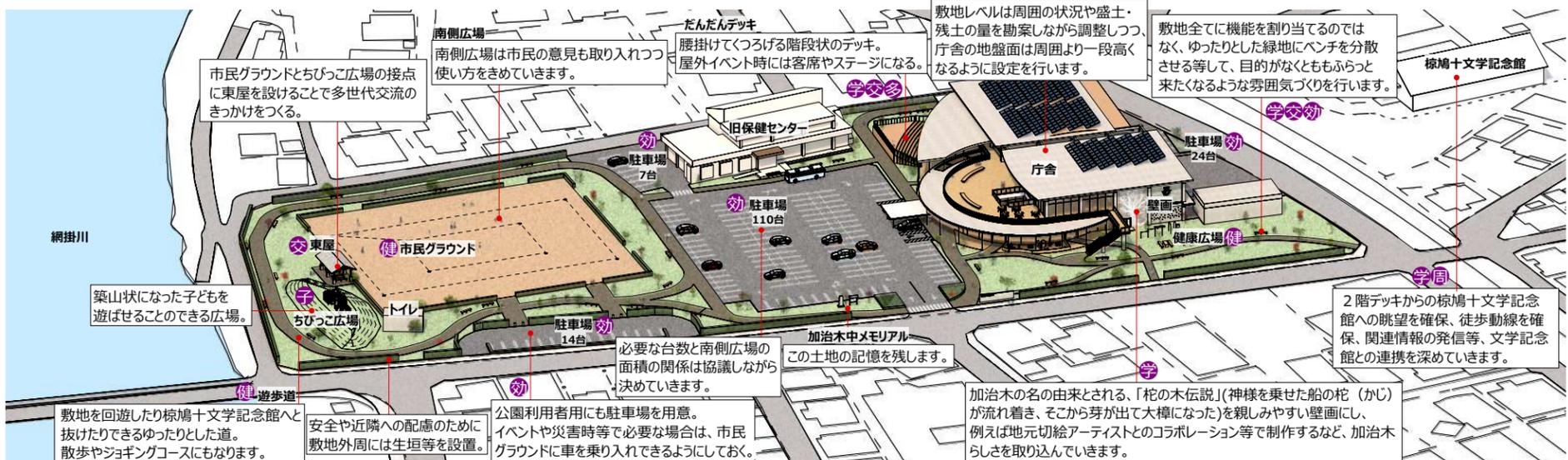
誰でも気軽に立ち寄れるような、日常の中に溶け込んだ施設とするために、機能と空間とを一对一の対応関係で区切るのではなく、さまざまな機能を空間の中に溶け込ませ、機能による心理的バリアを低減させるよう配慮します。そのために、市民の意見・ニーズを汲み取りながら、さまざまな機能の関係性を吟味し、余白と機能の重なりを生み出すような空間構成を追求していきます。

「居場所」としての空間デザインを徹底する

多様な人々が集う施設であることが、まちのにぎわい創出にもつながりますが、そのためには、そこがリラックスできたり、日々のお出かけ先となるような、こころよい「居場所」であることが重要です。その実現のために、それぞれの空間の機能やスケールに応じた「居場所」としてのデザインを徹底します。また、市産材を内外装の適所に多用し、人にやさしい居心地の良い空間づくりを行います。



- まち...まちとのつながりを感じさせるデザイン
 - 建築...安心と信頼感を与えるデザイン
 - サイン...親しみやすく、わかりやすいデザイン
 - 家具...使いやすく、人との関係性を支えるデザイン
- スケールに応じた「居場所」のデザイン



南側広場 南側広場は市民の意見も取り入れつつ、腰掛けてくつろげる階段状のデッキ。屋外イベント時には客席やステージになる。

市民グラウンドとちびっこ広場の接点に東屋を設けることで多世代交流のきっかけをつくる。

築山状になった子どもを遊ばせることのできる広場。

敷地を回遊したり、健康広場へと抜けたりできるゆったりとした道。散歩やジョギングコースにもなります。

安全や近隣への配慮のために敷地外周には生垣等を設置。

公園利用者用にも駐車場を用意。イベントや災害時等で必要場合は、市民グラウンドに車を乗り入れできるようにしておく。

必要台数と南側広場の面積の関係は協議しながら決めていきます。

加治木中メモリアル この土地の記憶を残します。

敷地レベルは周囲の状況や盛土・残土の量を勘案しながら調整しつつ、庁舎の地盤面は周囲より一段高くなるように設定を行います。

敷地全体に機能を割り当てるのではなく、ゆったりとした緑地にベンチを分散させる等して、目的がなくともふらっと来たいような雰囲気づくりを行います。

加治木の名の由来とされる、「柁の木伝説」(神様を乗せた船の柁(かじ)が流れ着き、そこから芽が出て大樫になった)を親しみやすい壁画にし、例えば地元切絵アーティストとのコラボレーション等で制作するなど、加治木らしさを取り込んでいきます。

2階デッキからの椋鳩十文学記念館への眺望を確保、徒歩動線を確保、関連情報の発信等、文学記念館との連携を深めていきます。

子育て世代を応援する庁舎

活気あるまちづくりを行う上で、子育て世代にとって住みやすいまちであることは最も重要なポイントの一つです。加治木というまちを未来へとつないでいくために、子育て世代を応援する庁舎を目指します。

ハード面では、親子で遊んだり、一時預かりのできる木の遊び場・こどもの庭や、絵本を読んだり読み聞かせをする絵本の部屋を設置します。

ソフト面では、例えば子どもの見守りや読み聞かせをしてくれる高齢者のボランティアを募集したり、運営団体を組織するなど、この場所で望ましい子どもの見守り方法を検討したり、多目的室等で子育て教室を開催したりといったことを進めることができます。

※組織編成として可能であれば、保健センターに併設して子育て支援センター機能をもたせることも可能です。



屋内外で利用可能な木の遊び場とこどもの庭

健康増進によって子育て世代を後押しする庁舎

高齢者に限らず市民みんなが健康であることは、介護費用や医療費の軽減につながり、ひいては、子育て世代の負担を減らしたり、予算を子育て世代にまわすことにつながります。本施設は、健康増進によって子育て世代を後押しする庁舎を目指します。

ハード面では、多目的ホールや保健センターなどの屋内スペース、市民グラウンドや健康広場、散歩やジョギングの出来る遊歩道などを整備します。

また、人々が健康で生き活きと暮らすためには、生きがいや役割を持ち充実した日常があることも重要な要素です。本施設では、多機能融合によって、高齢者の方にも役割を担っていただく場を提供し、本施設を支えていただくことができるような施設にしたいと考えます。



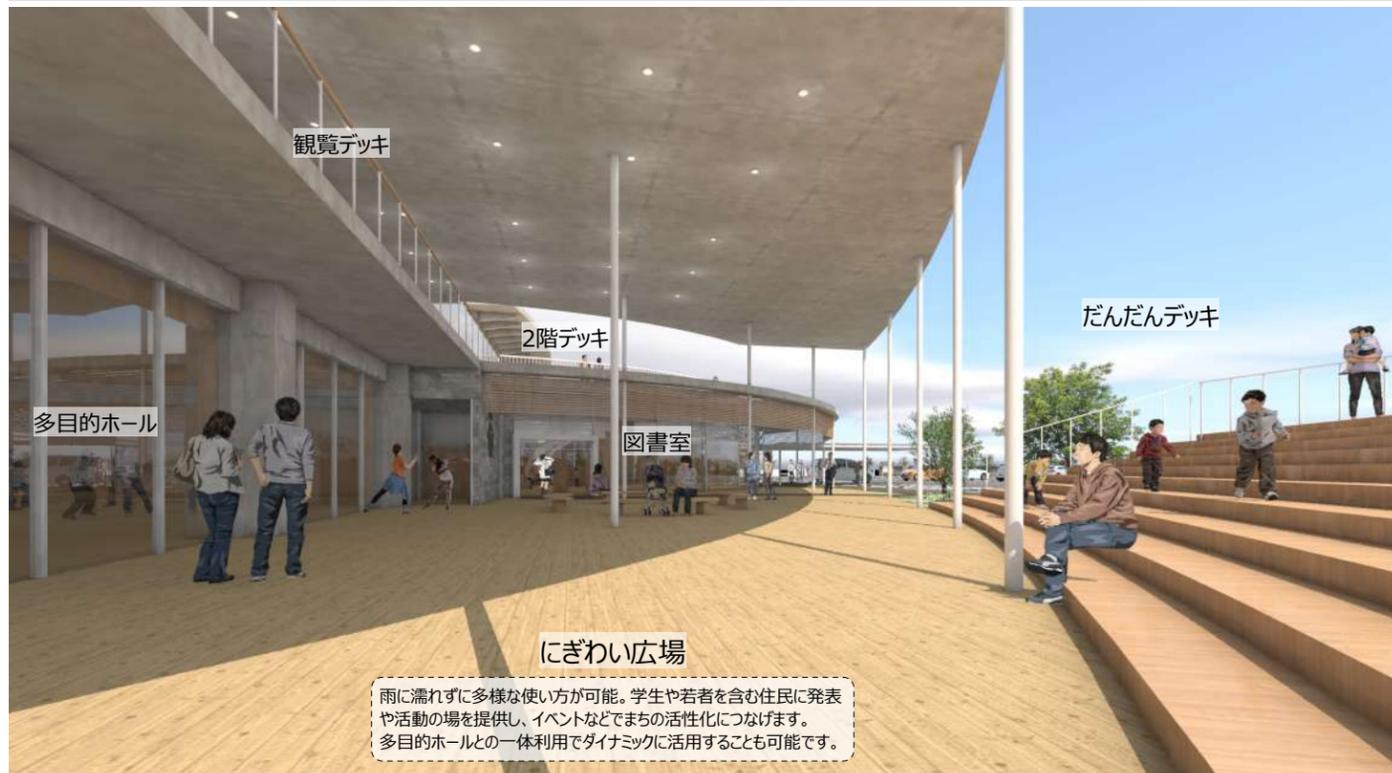
健康広場・遊歩道と「柁の木伝説」の壁画

特定課題 効：限られた敷地の有効活用と適正規模の駐車場

目的がなくとも訪れたい庁舎

限られた敷地を有効活用し、目的がなくとも訪れたい庁舎を目指します。そのため、屋外空間においても、敷地全体に機能を割り当てるのではなく、余白と機能の重なりを生み出すような空間構成をこころがけます。

駐車場に関しては、北側に職員用の駐車スペースを確保するとともに、南側広場の利用も考えられるため、敷地の余白を確保できる範囲で出来る限り駐車台数を確保するように努めます。また、休日には商店街や近隣の施設利用者駐車場を開放し、連携を深めることも考えています。



特定課題：商店街との連携など、まちのにぎわい創出に寄与する機能

特定課題：周辺の公共施設の有効活用及び相乗効果

まちとともに育てあう庁舎

本施設の運営にあたっては、敷地内、建物内で完結するのではなく、にぎわい広場を含む庁舎のスペースを商店街や地域の方に開放して積極的に利用してもらうなど、まちとともに育てあう庁舎を目指します。

また、加治木にはさまざまな史跡や神社、昔ながらの石垣など、徒歩圏内に多くの見どころやほっとする場所があり、これらを活かすことも大切だと考えます。

まちとともに育てあう庁舎とするための手法

- ・庁舎や広場に人が集まることによって商店街等への波及効果を生む
- ・人々の活動を可視化する空間構成によってにぎわい創出とまちの活性化を図る
- ・商店街や椋鳩十文学記念館など周辺施設の旬の情報を提供
- ・商店街や文学館などと連携した同時イベントや、店舗・人紹介イベントなどの開催
- ・にぎわい広場での商店街主催のイベント開催及び商店街への誘導
- ・休日の駐車場開放や、平日の商店街の利用と連携した駐車サービスなど
- ・商店街等利用と連携した子ども預かりサービスなど
- ・商店街や加治木内で飲食店開業予定の方を、チャレンジキッチン貸し出しなどによって支援し、まちの活性化につなげる
- ・まち歩きイベントなどの開催による史跡紹介及び、それに連携した商店街や施設紹介
- ・マルシェや演奏会などによる集客と商店街店舗の参加による認知・アピール
- ・2階デッキから文学館を眺められるようにするとともに文学館へ抜ける動線を確保



特定課題：市民ニーズに応じた柔軟な運用

区画ラインの設定による柔軟な施設活用

多様な機能を併せ持つ本施設では、閉庁時間での施設利用が見込まれることから、行政機能とその他機能とのゾーニングを明確にし、柔軟な施設利用が出来るように計画します。

そのため、行政機能とその他機能との間に閉庁ラインを設ける他、いくつかの区画ラインを設けることで、多様な利用形態・利用時間に対応できるように配慮します。

また、時間帯や利用規模によっては、職員用駐車場を開放し出入りを宿直室前に制限することも想定しています。

施設の予約状況や利用状況、利用可能範囲他各種情報を案内するデジタルサイネージを、主入口近くに設置することも検討します。

1階多目的ホール、2階多目的室は、間仕切りによって可変性をもたせるとともに、災害時にも対応できるように計画します。



だんだんデッキによって囲われ、一体感のある多目的ホールとにぎわい広場

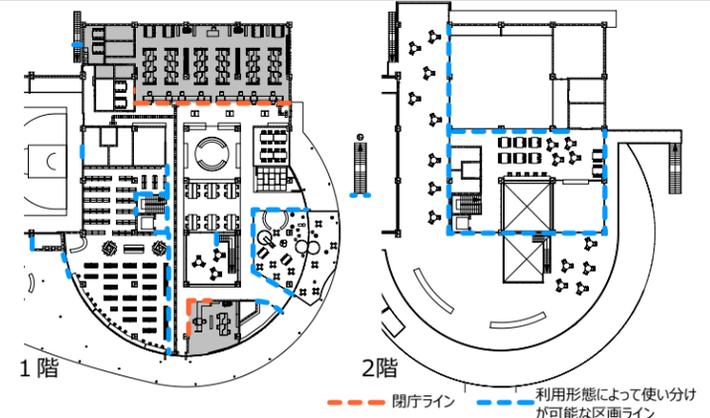
活用の要としてのコミュニティキッチン

2階のフリースペースに隣接して、多様な使い方を想定したコミュニティキッチンを計画します。飲食空間は「誰でもそこに滞在して良い」というメッセージを伝え、人と人をつなげる力があります。コミュニティキッチンの積極的な活用が、にぎわいを生み、まちを活性化させる大きな力になると考えます。

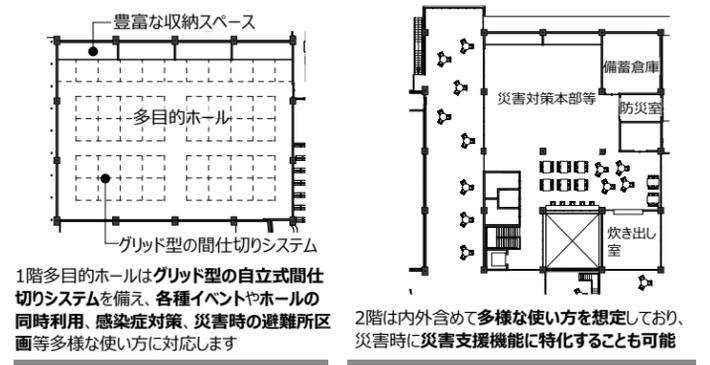
コミュニティキッチンの活用例

- ・郷土料理研究や料理教室などによる、文化の継承や、健康増進
- ・曜日限定のこども食堂・みんな食堂の開催による多世代交流機会の提供、こどものサポートや見守り・高齢化による孤食の解消
- ・開業予定者にチャレンジキッチンとして貸し出し、開業を支援
- ・イベントでのケータリングサービス利用による料理の提供
- ・商店街や人気店による出張レストラン
- ・イベント時の給湯、仕出し室として利用
- ・スポーツ活動後の2次会で利用 など

※チャレンジキッチン・・・加治木で飲食店の開業などを予定している人に、条件付きでスペースを貸し出し、支援を行います。メニューや価格などを試してお客さんの生の声を聞けたり、事前にファンを作ったりできるといったメリットがあり、開業のハードルを下げることでまちの活性化につながります。



多様な区画ラインの設定



多目的ホールの間仕切りシステム

2階を災害支援機能に特化した場合

エリアマネジメントの視点を重視した業務プロセス

本施設が十分に活用され、その機能を発揮するためには、ハードの整備だけでなく、課題やニーズを汲み取り可能性を広げるプログラムの企画や、人材や地域資源の発掘・育成など、ソフト面の整備も重要になってきます。

そのため、設計の段階からエリアマネジメントの視点を重視・共有し、本事業の可能性を最大限に拡げられるように様々な関係者と協力しながら業務を遂行していきます。

それによって、さまざまな世代の市民が参加し、みんなでコミュニティを築いていくような文化がより確かで持続的なものになると考えます。

※エリアマネジメント：地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組

- エリアマネジメントのポイント：
1. 「つくること」だけでなく、「育てること」
 2. 住民・事業主・地権者等が主体的に進めること
 3. 多くの住民・事業主・地権者等が関わり合いながら進めること
 4. 一定のエリアを対象としていること

